

天災

2024. 2. 18

25年ほど前のことである。国語の授業で、「原子力発電所は必要か」というテーマで、パネル・ディベートを行ったことがあった。4つの立場に分かれて、討論を展開した。授業の最後に、私から次のような話をした。

福島県にある原子力発電所で、もし事故が起きればどうなると思うか。皆さんは、どうするか。北に逃げるか、南に逃げるか、西に逃げるか。あるいは、逃げないか。

この時点では、まさか本当に原発事故が起きるとは思ってはいない。だが、全く可能性がないとも思っていなかったのも事実である。残念ながら、心配事は現実のこととなってしまった。

日本は地震の多い国の一つである。今年はすでに、1月1日に能登半島地震が発生した。記憶をたどってみる。北海道で大きな地震があった。新潟でも大きな地震があった。阪神淡路大震災があった。あ那时的衝撃は忘れない。テレビから流れる映像は、まるで映画の世界だった。この地震から日本人の地震に対する認識が変わったように思う。熊本でも大きな地震があった。そして、東日本大震災である。

これからのことを考えてみる。南海トラフ地震が起きると言われている。そうすると、関東が残る。果たして、関東は大丈夫なのだろうか。富士山噴火も心配される。これからは、人口密集地帯を襲う地震が想定される。日本の備えは十分なのだろうか。

我が家の長男も長女も関東の都心部に住んでいる。心配である。地震は、いつ起こるかわからない。東日本大震災のときに思ったことがある。いざというときは、家族は一緒のほうがよい。何年先になるかはわからないが、私と家人が都心に住むという選択肢もある。それまで、地震が起きなければいいのだが。

関東大震災が再び起きれば、どれほどの被害が出るのだろうか。きっと、シミュレーションはできているのだろう。「天災は忘れた頃にやってくる」科学者で随筆家の寺田寅彦の言葉である。残念ながら、この言葉は、もはや使えない。なぜなら、天災が忘れる前にやってくるからである。

寺田寅彦は、防災についての随筆を多く残している。その中で、文明が進めば進むほど、自然災害の被害が増大することを指摘している。また、天災による被害を忘れることへの危険性を訴えている。今の時代に、寺田寅彦が生きていれば、天災は忘れる前にやってくるのだから、そろそろ本気で考えましょう。そう言うのではないか。

天災とは、人為的に避けにくい災害のことである。だが、被害の程度は、人為的に変えることができる。今からでも間に合うかもしれない。阪神淡路大震災、東日本大震災、そして能登半島地震と、もう十分である。東日本大震災では、釜石の奇跡があった。東京の奇跡が必要である。国を挙げて行動を起こすときではなからうか。手遅れとなる前に。